

# 平成 31 年度 事業報告書

## 社 会 福 祉 法 人 金 太 郎 の 家

デイサービス金太郎の家	地域密着型認知症対応型通所介護事業所さざんか 地域密着型通所介護事業所やまぶき 訪問介護事業所 居宅介護支援事業所
金太郎の家 障がい福祉サービス	居宅介護、同行援護事業所 日中一時支援事業所
麦の家	就労継続支援 B 型事業所 生活介護事業所 相談支援事業所
金太郎の家福祉移送サービス	一般乗用旅客自動車運送介護タクシー事業所 有償運送事業所
金太郎の家	集いの場 有償ヘルパー事業所

# 平成31年度事業報告

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

## 社会福祉法人金太郎の家

### I. 総括（法人全体）

#### （1）法人のミッションに向けて

だれもが尊厳をもっていきいきと暮らせる地域社会づくりの一助となることを願い活動を行った。病気や障がい、高齢等の困難を抱えた方々の人権が守られ、住み慣れた地域において、その人らしい生活が継続できるように支援をすることを目的とし、職員一同、一丸となって、事業に取り組んだ。

#### （2）団体設立20周年を迎えて

当団体は、平成11年6月に住民参加型団体として立ち上げ、今年は、20年の節目の年に当たった。これを機に、これまで支えて下さったたくさんの方々に感謝するとともに、20年の歩みを振り返り、これから私たちが向かうべき方向性を探っていきたいと考え、さまざまな取り組みを行った。

① 職員会等において、立ち上げ当初の様子や思い、岩井元之助前理事長の考え方などを紹介し、問題提起を行なった。4月24日「社会福祉について～岩井元理事長の遺稿から」、9月25日「介護について思うこと」、12月27日「金太郎の家で大切にしたいこと」等

② 10月6日、麦の家において20周年記念感謝祭を開催した。初めての法人施設を使つての大きなイベントであったが、各部署の職員が力を合わせ、またたくさんボランティアの皆さんや、地域の方々の協力により盛大に行うことができた。内容としては、屋外ステージ、屋台、展示、喫茶コーナー、健康相談、福祉用具の展示、アロママッサージコーナーなどを設置し、約350人のご利用者や地域の方々にご来場いただいた。展示コーナーでは、当法人の20年の歩みや理念も紹介した。

③ 立ち上げから20年の歩みをまとめ、記録に留め、広報することを目的に『20周年記念誌』の編集に取り組んだ。ご利用者やご家族、今まで支援いただいた方々などからも寄稿をいただき、活動を振り返る良い機会になった。年度内の完成を目指していたが、次年度5月に出来上がる予定である。

④ 金太郎の家設立当初より勤務し、法人のために貢献してきた永年勤続の職員5名を、職員会において表彰し、労をねぎらった。

⑤ 法人の今後について話し合い、中長期計画を作成する予定であったが、達成できなかった。

#### （3）経理規程の変更

平成30年9月に行われた法人監査において、経理規程の中のサービス区分を見直すようにとの指導を受け、本年度より変更した。事業ごとの収支がわかりやすいように、指定事業を基本とした8つのサービス区分とし、また、老人居宅介護支援事業は公益事業として経理処理を行うこととなった。

#### (4) 事業及び、加算、利用料等の変更

今年度は、新事業の立ち上げなどは行わず、各既存事業の内容の充実に力を注いだ。

○居宅介護支援事業所においては、4月から常勤ケアマネを1名増員して6名の体制とし、受託件数も増えた。また、常勤が3名となり特定事業所加算Ⅲの条件を満たしたので、6月より取得した。これにより、週1回のケース会議、24時間電話対応のできる体制の整備も行っている。

○表の家生活介護においては、常勤看護師1、非常勤看護師1を配置し、10月1日より、常勤看護職員配置加算を取得することとした。就労継続支援B型においては5月1日から目標工賃達成指導員配置加算を取得している。

○居宅介護、同行援護においても特定事業所加算を10月より取得した。

○消費税の増税にともなって介護保険事業、障がい福祉事業において、特定処遇改善加算が新設された。当事業所も高齢、障がいともに条件を満たしており、取得することとした。

○有償ヘルパーの料金は、法人各取得当初より据え置いていたが、運営が厳しい状況にあり、この度料金を1時間1,000円から1,400円に変更した。また、ヘルパーが訪問してからのキャンセルも多く、当日のキャンセルに対しては、300円のキャンセル料をいただくこととした。

#### (5) よりよい支援に向けて

##### 1. ご利用者、一人ひとりの思いに添った支援を目指して

各部署でアセスメントを深くし、お一人お一人の思いに添ったサービスの提供に努めた。集団から個別の支援へ、また在宅生活が1日でも長く継続できるよう支援に取り組んだ。詳細は、各部署に記載。

##### 2. 職員の研修を充実

①本年度も年度初めに各自研修計画を立て、自己研鑽に勤めた。年度末には、全員が年間を通しての振り返りを行い、報告書を提出した。

②延べ123人が外部研修に参加した。外部での研修の情報をできるだけ職員に提供するようにした。研修報告書を提出することを徹底し、一部は職員会で発表し、全職員で共有した。

又、職員会の時に研修を取り入れるようにし、外部研修に参加できない職員も研修の機会が持てるように努めた。この内部研修では、内容の充実を目指し、分かりやすいようにパワーポイントを使ったり、グループワークの手法を用いたり工夫を行った。外部から講師を招いての研修も取り入れた。5月には石橋典子先生に来所いただき認知症研修、9月には庄原地区の人権同和研修を職員会にて実施していただき、いずれもとても有意義な研修となった。

③4名の職員が、介護職員初任者研修や、介護福祉士、精神保健福祉士の資格取得の学習に取り組み、全員が働きながら資格を取得することができた。

##### 3. 環境の整備

①出雲市から補助金をいただき、さざんか玄関周辺の改修を行った。同時にトイレの数が少なく段差があり使用しにくい状況にあったので、トイレの増設と、既存トイレの段差解消、壁の張り替えなどの改

修も行った。さざんか玄関の風除室を広くし、周りにガラス戸を取り付けてスペース広くした。リハビリや作業など多目的に活用できると考えている。工夫して有効に活用していきたい。

②やまぶき活動棟では長年、籐椅子と座卓を使用してきたが、ご利用者の身体機能の低下もあり、立ち上がりにくい、前かがみの姿勢になる等の問題があり、テーブルと椅子を使いやすいものに買い替えた。冬場は、座面の高い炬燵となる。これにより、部屋の雰囲気も変わった。

### 3. 運営推進会議、及び第三者委員会の開催

地域密着型デイサービスの運営推進会議を、4月17日と10月24日に開催した。出雲市高齢福祉課やあんしん支援センター、利用者代表、家族代表、地域代表の方等にご参加いただき、デイサービスの利用状況の報告、事故ヒヤリハットの報告、介護の集いや20周年感謝祭の様子などを紹介し、委員の方から貴重なご意見やアドバイスをいただいた。

又、第三者委員会の全体会を、5月7日、10月29日、令和2年3月3日に開催した。当法人が受けた苦情や、事故、ヒヤリハットの内容等を報告し、改善に向けてご意見をいただいた。この全体会以外に、第三者委員方に毎月交代で事業所の介護現場を訪問しているが、今年度から希望される方と、面談もしていただくことになり、数件の相談があった。重大な苦情等があった時には、緊急にお集まりいただき、内容を報告、対応についてアドバイスもいただいた。

#### (6) 利用状況及び運営状況について

法人全体の年間総利用延べ件数は30,369件で、昨年に比べ709件の増、事業活動収入は204,724千円であった。一方事業活動支出は、176,812千円であり、事業活動収支差額は、27,911千円、当期資金収支差額は、2,675千円であった。人件費率は、69.2%である。

前述したように、今年度より会計区分の変更を行ったため、前年度事業との比較は必ずしも当たらない部分もあるが、傾向は理解いただけると思うので比較してみる。

##### 1. 通所介護事業

地域密着型認知症対応型通所介護さざんかは、12人の定員に対して、年間の平均利用人数は、11.6人で、毎月11人台を維持することができた。利用料収入は、48,576,490円で、ほぼ前年と同じであった。地域密着型通所介護やまぶきについては、その区分の中に、今年度より有償デイ、延長デイも入ってきたので、全体としては41,323千円と増えているが、個別に見てみると、やまぶきの利用は総合事業も含め、3,942件で昨年と比較し46件のマイナス。利用収入は、38,284千円で315千円の減であった。夏と冬に利用が、幾分減少したが、13人定員に対して12人台の利用は確保できた。やまぶきは、ご利用者の高齢化が進んでおり、入院や施設入所される方も多かった。

有償デイには、集いの場だけではなく、延長デイも含まれるため、昨年より、224件34万円の増であった。集いの場は、年間12回開催し、延べ1520人の利用があった。昨年度より98人の増である。延長デイについては、ご家族が帰られるまでほぼ毎日延長してデイサービスを利用される方も複数あった。後半はその方々が、入所されたため利用はなくなった。

全体的に高齢者の通所事業は昨年と変わらず、好調であった。

## 2. ヘルパー事業

介護保険訪問介護の利用は、総合事業も含め 4369 件で、1065 件の減、収入は 16,677 千円で、1,494 千円の増であった。有償ヘルパーは、1,002 件で、123 件の減であったが、収入は 228 千円の増であった。これは、10 月からの加算の改定や、前述したように有償ヘルパー料金の変更やキャンセル料による影響も大きいと思われる。

障がい居宅（障がいヘルパー）は、居宅介護が 1,321 件で 276 件の増、収入は 1,152 千円のプラス、同行援護は 94 件で 7 件 276 千円の増であった。移動支援は、1520 件で 53 件のマイナスで収入も 239 千円の減となった。通学支援の人数が減ったことも影響を受けていると思われる。

## 3. 福祉移送

介護タクシー部門は、タクシー車両を 1 台減らしたこともあり、有償運送（78 条）が 3,228 件で 517 件 646 千円の減、介護タクシーは 920 件で、202 件 178 千円の減。長年利用されていた養護学校の生徒さんが卒業され、利用件数が減ったこと、移送に当たる職員が不足し、需要に応えられない状況が続いたことも影響していると思われる。当団体が立ち上げた当時、地域課題であった移動困難者の生活の足を守らなければという思いで始めた福祉移送だが、公的にまめなかタクシー等が利用できるようになり、また介護タクシー事業者も増えてきて、当法人は一つの役割を果たし終えたという思いもある。

## 4. 障がいデイ（生活介護、就労継続支援 B 型）

就労継続支援 B 型の延べ利用件数は、3,321 人で、305 人の増となり、平均利用人数は、10.78 人で、日々ほぼ定員を満たすようになってきた。収入は、6,074 千円の増であった。目標工賃達成指導員加算を取得したことも大きい。

生活介護は、延べ 2081 人の利用で、965 人の増。1 日の平均利用人数は、6.76 人で、波はあるものの、少しずつ増えてきている。収入も 998 万円の増となった。

日中一時支援の利用は延べ 500 人の減で収入も 1,453 千円の減であった。長い間利用されていた方が入所されたり、放課後利用されていた方が学校を卒業されたこともある。また生活介護の利用者が増え、職員体制上、日中一時支援の受け入れが難しくなっていることもある。

## 5. 高齢者居宅介護支援、障がい者相談支援

高齢者の居宅介護支援は、1749 件（認定調査数も含む）で、610 件の増。収入は 9874 千円の増となった。常勤ケアマネが、1 人増えたこと、6 月より特定事業所加算が取得できたことが大きい。

障がい者の相談支援は、年間 122 件と、去年の 2 倍に増え、収入は 1540 千円となった。

### （7）地域の中の社会福祉法人として

地域の中の社会福祉法人としてありたいと、日々の交流のほか、様々な行事を企画したり、地域行事に参加させていただいたりして、交流を図った。

#### 1. 地域交流行事等

7 月 30 日に「夏休み子どもクリーン活動&ふれあい交流会」を開催。参加した地域の子供たちと、荳原駅の清掃、その後第三活動棟に移動して、金太郎倶楽部の方々とペン立て作りなどを行い、交流した。

6 月 12 日にはおちらとウォーキングを開催、近隣の方や利用者の方など 19 名とボランティア 7 名、

職員7名で、にぎやかな会となった。コースは、御井神社、玉昌寺周辺4kmで、荒神谷資料館勤務の宍道年弘さんに説明をいただき、古に思いを馳せながらウォーキングし、有意義な交流の場となった。

20周年記念祭は、前述のとおりである。

地域の行事や荘原コミセン祭りへも出かけた。コミセン祭りでは、展示、焼きそばの販売を行った。地元自治会の川掃除にも、金太郎の家として職員が参加した。

## 2. 介護の集いの開催

介護の集いを今年も開催した。第1回目は、あや司法書士事務所の藤原文香先生を招き遺言や、遺産相続についてお話いただいた。利用者のご家族や地域の方々18人の参加があり、職員15名も一緒にお話を聞いた。日頃タブー視されているこの問題について考える機会を持てたことはよかった。

2回目は、11月16日に開催。皆でクッキングをし、一緒に会食しながら、日ごろの介護の悩みなど思いを語り合い、なごやかな会となった。3回目はリフレッシュ旅行を企画していたが、新型コロナウイルス感染予防のために中止した。

## 3. 斐川社会福祉法人地域貢献活動への参加

「斐川社会福祉法人連絡会」の社会貢献活動として、地域のサロンへ出かけさせていただき、一緒に体操をしたり、認知症や、フレイルのことについてなどの話をした。地域のサロンに出かけることで、法人職員も学ぶところは多かった。

## 4. 一人暮らし応援隊（くまの風呂敷隊）の活動

くまの風呂敷隊の活動として、月1回の買い物支援や、弁当の配食、まめですか訪問を行った。買い物だけではなく、そこでのお互いの交流も楽しみにされていた。

## 5. ホームページを刷新。

IT補助金を頂き、新しくホームページを作成した。「ホーム」「法人案内」「サービスの案内」「商品紹介」「採用情報」からなり、商品紹介には、ショッピングカート機能も付いている。法人の活動内容が地域の方に理解していただき易くなったのではないかと。「ホームページを見た」との電話もいただき、いくらか反響があった。

## (6) 活力ある職場作りを目指して

### ① 職員会の形式を変え、内容の充実を図った。

来月の行事予定や、各部署からの報告は短縮し、職員研修に重点を置くようにした。

外部講師を迎えたり、テーマに添ってパワーポイントを作成したりして、職員に内容が伝わりやすいように工夫した。グループワークも取り入れ、異業種間の職員交流も図れてよかった。職員の年度末の振り返りに、内容が充実し有意義な会になってきたとの声が複数聞かれた。

### ② AIG社の業務災害総合保険に加入した。

業務中の事故の場合、労災のほかに、法人として加入した業務災害総合保険より、通院費、入院費が支払われることは、以前と変わらないが、病気で入院した場合も自己負担の部分を、50万円を上限にこの保険から補助することとし、福利厚生を図った。

### ③ 職場の健康診断の自己負担をなくす。

健康診断の費用は、今までジョイメイトを使い、一部自己負担となっていたが、特別なオプションを付ける場合以外は、全額事業所負担とした。

④ 昨年度から、職員への伝達方法の見直しを行ない、メール配信を行っている。

⑤ 計画的有給休暇の取得、残業時間の短縮

「働き方改革」により、「年5日の年次有給休暇の確実な取得」が義務付けられたため、職員は年次有給休暇の取得の希望日を提出、確実に年次有給休暇が取得できるようにした。残業時間の短縮を目標としたが、部署によっては、まだ遅くまで業務をしている職員もいる現状がある。今後業務分担の見直しなど考えていく必要がある。

育児、介護、傷病による休暇や時短については、希望する職員はほぼ取得できた。

職員が元気に、生き生きと仕事に取り組める職場づくりに取り組んでいきたい。

## (7) 職員間のインフルエンザの流行と新型コロナウイルス

12月の末から1月、2月にかけて施設内にインフルエンザが流行した。12月26日の職員会の後より職員間に発熱者が続出した。12月30日の時点で疑いも含めて14名が罹患。丁度正月休みに入ったため、拡大が幾分抑えられたが、1月以降も、発症する職員が続いた。利用者の感染も幾人か確認されたので、出雲市役所高齢者福祉課、福祉推進課、出雲保健所にも報告をし、ご指導いただいた。

令和2年3月には新型コロナウイルスが全国に拡散し、当事業所も感染防止に取り組んだ。集いの場は、3月中旬より2週間休業した。

## II. 各事業の実施状況

### 1. 法人本部

#### (1) 理事会、評議員会の開催

今年度は4回の理事会と1回の評議員会を開催した。地域に根差した法人活動の展開に向けて意見交換が行われた。内部監査、監事監査も実施した。理事会、評議員会の開催内容は次のとおりである。

平成31年度 理事会

会議名	日時	出席者数	議事
第1回理事会	令和1年6月3日 (月)18:30~20:00	理事7名 監事2名	○平成30年度事業報告(案)について ○平成30年度決算報告(案)及び財産目録(案)の承認について ○令和1年度第1次補正予算(案)について ○定款変更(案)について ○新役員の選任(案)について ○評議員会の招集について
第2回理事会	令和1年6月21日 (金)19:20~19:35	理事7名 監事2名	○理事長の選定について

第3回理事会	令和1年12月2日 (月) 18:30~20:00	理事7名 監事2名	○令和1年度第2次補正予算(案)について
第4回理事会	令和2年3月9日 (月) 18:30~20:30	理事7名 監事2名	○令和1年度第3次補正予算(案)について ○令和2年度事業計画(案)について ○令和2年度当初予算(案)について ○給与規程改定(案)について

#### 平成31年度 評議員会

会議名	日時	出席者数	議事
第1回評議員会	令和1年6月21日 (金) 18:00~19:15	評議員 8名 監事 1名	○平成30年度計算書類及び財産目録の承認について ○次期役員を選任について ○定款変更の承認について

## (2) 福祉啓発、地域交流事業

### ①介護の集い

福祉啓発活動として介護の集いを下記のとおり実施した。第3回目を3月14日(土)に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

	第1回:7月6日(土) 18:30~20:30	第2回:11月16日(土) 11:00~14:00
参加	参加者 33名	参加者 10名 スタッフ 4名
活動内容	○司法書士による講演 あや司法書士事務所 藤原文香先生を講師に迎え、「家族や自分に何かあった時困らないために」をテーマに遺言や遺産相続について学んだ。 先生の話が分かりやすく、笑いもあり雰囲気の良い講演会であった。	○クッキング、懇親会 クッキングでは、豚汁、おにぎり三種、さつま芋巾着絞りを作った。自然と役割分担ができ、和気あいあいとした雰囲気だった。参加人数は少なめだったが、全体で話をするには話しやすく、他の方の話を聞いて「参考になった」等、感想があった。

### ②地域交流行事等

福祉啓発、地域交流を目的に、「おちらとウォーキング」「夏休みこどもクリーン活動&交流会」「荘原コミュニティセンター文化祭への参加」等の行事を行った。また、立ち上げ20周年を記念し、「金太郎の家20周年記念感謝祭」を開催した。詳細は下記のとおり。



事業名	開催日	開催場所	対象	参加者数	活動の内容、様子など
おちらとウォーキング	6月12日 (水)	玉昌寺、御井神社	視覚障がいのある方、ご利用者、地域の方等	参加者 19名 講師 1名 ボランティア 6名 職員 8名	今年も宍道様を講師に迎え、直江方面のウォーキングを実施した。天候も良く、全体的に話もゆっくり聞きながら、のんびりと回れてよかった。
夏休み子ども交流会	7月30日 (火)	荘原駅 第3活動棟	近隣の小学生、金太郎クラブ参加者	小学生 9名、 倶楽部 15名 ボランティア 名 職員 5名	荘原駅の清掃と駅～第3活動棟までのごみ拾いを実施した。交流会では牛乳パックを使ったペン立てを作った。その後、体操や歌など良い交流になった。
荘原コミセン祭への参加	10月19日(土)、 20(日)	荘原コミュニティセンター	荘原地区の方		ご利用者の作品を出品した。バザーでの焼きそば販売では、221食売り上げた。
金太郎の家20周年感謝祭	10月6日 (日)	麦の家	利用者の方、地域の方、金太郎の家に関する皆様	参加者 350人	立ち上げから20年がたち、皆様に感謝の気持ちを伝えるべく感謝祭を開催した。麦の家を会場にステージイベント、屋台、展示等を行った。およそ350人の参加があり、利用者、その家族等、楽しんでおられた。今後もこの形を続けるか検討したい。

### (3) 情報の発信

機関紙「金太郎便り」を年3回発行した。フェイスブックでも活動の様子や行事のお知らせ等こまめに発信していった。今年度はホームページをリニューアルし、見やすく、わかりやすくなった。商品紹介ページからは通信販売で姫茶、命茶が買えるようになった。今後は更新のペースを上げていくことが課題である。

### (4) 厨房

#### 1. 活動内容

- ・朝のお茶口、昼食、午後のおやつ、配食弁当、遅番夕食、宿泊の夕食の調理、後片付け。

- ・毎月15日はお弁当の日とした。皆で、煮しめクッキングを定期的に行った。調理の下ごしらえ、食事の準備なども、ご利用者と一緒に行った。
- ・献立作成、食品の発注、食品払い出し簿の記入、衛生管理簿の記入など。
- ・検便を実施。

## 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・介護保険御利用者25名、集いの場御利用者5名～18名、就労・生活介護・日中12名～22名、配食弁当週7～9食、遅番夕食（水・木）1食のご利用があった。（9月で定期の夕食の提供はなくなった）
- ・食事形態・好き嫌いが多く見られ個々に対応をした。又、病気治療中の方への食事提供を行った。
- ・クッキングを多く設けた。少人数での配膳や簡単なクッキングを、PTと共に行って下さり、食との関りを持って下さった。

## 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

### 取組み

- ・個々の食事形態、嗜好を考えた食事作り。
- ・食品管理、衛生的に調理をする。
- ・午前午後のお茶口作り。午後のお茶を皆さんの好きな物を選んで頂いた。
- ・季節感を大切に食事づくりと行事に合わせた食事作り。
- ・麦の家の食事作り（火、木、金）。

### 効果

- ・ご利用者の高齢化や体調面で食が細くなり、食べて頂けない事が有った。形態の工夫やメニュー自体を変更する事で臨機応変に対応した。デイの職員から情報を頂き、状況に合わせた食事を提供した。
- ・午後のお茶時、ご自分の好みの物を飲んで頂き、皆さん喜んで下さった。衛生面では、分科会の議題にあげ、注意する点などを共有する事で改善する努力を行った。
- ・お茶口作りでは、季節の煮物や洋菓子里に和物のお菓子と、色々な種類のものを提供した。
- ・麦の家での調理（火、金、1・3の木）も定着し、ご利用者の今の状況を知る事も出来た。

## 4. 反省点 課題

- ・ご利用者の人数も増え、嗜好を覚えきれないことも有る。対応しきれない事も有った。
- ・衛生面は十分に気を付けてはいるが、食品の取り扱いや保存等の管理の徹底を継続して行う。
- ・食品の値上がり有、全てグリーンセンターでの購入ではなく、安く購入できる店舗にて購入する品数も増え、今後も値を抑えられる物は抑えていかなければと考えている。
- ・麦の家の新規の方の情報が入りにくい事が有った。細かい点での連絡が不十分な事もあった。今後は、連絡を細かくとり対応できる様にする必要がある。
- ・今後も継続してできる事は行い、ご利用者の方に喜んで頂ける食事作りを行なっていきたい。

（担当：原 淳子）

## 2. 老人デイサービス事業

### (1) 地域密着型認知症対応型通所介護（予防も含む）さざんか

#### 1. 活動内容

- ・9:15～16:30 を提供時間として、さざんかの活動棟にて、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクリエーション、外出等）、入浴サービス、食事やおやつの提供などを行っている。
- ・5月には遠足で出雲大社に出かけた。その他にも、道の駅の足湯や、斐川図書館、荒神谷博物館の展示物の見学などの外出も行った。また、地域交流として、いりすの丘での餅つきや笹巻づくり、だんだんよさこい祭りの観覧、荘原コミセンや合銀荘原支店へ利用者様の作品展示などを行った。
- ・季節の行事として蕎麦打ち、餅つき、クリスマス会や節分、とんどさん、初詣なども行った。
- ・また、季節に合わせての花見のドライブや散歩、外出なども積極的に行っている。

## 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・概ね定員いっぱいでも利用していただき、年間を通じて利用は好調だった。
- ・今年度の男女比が15：19であり、男性の利用者の方に多く利用していただいている。
- ・ご家庭の都合などで、ご希望のある方は延長サービスとして、夕食を提供してからお送りしている。7月までは概ね2名、週4～5回のご利用があった。8月～2月は概ね1名のご利用があった。

## 3. 今年度、力を入れて取り組んだこと 効果

- ・男性の利用者の方が多く、畑での作業や、庭木の剪定、ペンキ塗りなど、男性の方が得意とされる活動を積極的に取り入れた。また、缶つぶしを意欲的にして下さった。今年も正月準備として、門松づくりも行い、皆さんで協力して立派な門松ができあがった。
- ・月一回の分科会にて利用者の方の状態や注意点などを共有し、転倒防止、薬の確認を再確認し、職員間で確認するように話合った。また、職員用デイ連絡ノートを活用し、職員間で情報共有している。
- ・机の配置や椅子の置き方などその日の利用者の方が過ごしやすい雰囲気作りが出来るよう提供し、その日の体調に合わせ、個別対応し、利用者様に寄り添い付き添って対応した。
- ・3月には、外トイレを1つ増設し、既存のトイレもタイルを板張りにし利用しやすくした。風除室を広くし、学習活動スペースを広くした。

## 4. 反省点 課題

- ・活動棟が手狭であり、玄関の所を板張りにして活動スペースが広がったが、まだうまく活用されていないので、利用者の方が快適に過ごしていただけるような環境整備、活動内容を行っていく必要がある。
- ・重度な認知症の方への対応や、帰宅願望がある方への対応、迎え時の拒否のある方の対応について困難を感じる場面が多々あった。様々な認知症へ対する理解や、実際の対応方法についてもっと職員間で検討していく機会を作っていきたい。  
(担当：古川容子)

○利用件数（予防含）定員12人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	295	320	298	316	308	292	318	303	291	271	279	290	3,581
平均	11.35	11.85	11.92	11.70	11.41	11.68	11.78	11.65	11.64	11.29	11.16	11.15	11.55

## (2) 介護保険 地域密着型通所介護（総合事業含む）やまぶき

### 1. 活動内容

- ・9:15～16:30 を提供時間として、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクリエーション、外出等）、入浴、リハビリ、食事やおやつを提供などを行った。
- ・ケアプランに基づき、個別援助計画を作成しご利用者がその能力に応じて自立した日常生活を営めるよう援助した。定期的及び必要時にモニタリングを行い、計画を見直しご利用者の状況、希望に添ったケアの提供に努めた。
- ・リハビリ的視点に立ち、PT が中心となり生活の活発化に向けた支援を行った。周辺の散歩をはじめ、食事の準備、野菜の下処理、畑での野菜づくりや下肢の筋力の維持、向上の取り組みを実施した。
- ・活動では、脳トレを希望される方も多く、クロスワードや間違い探し等の活動も取り入れ、達成感を感じて頂けるよう配慮した。下肢の筋力維持向上ため新聞紙、ボール等の道具を使って下肢の運動も行った。
- ・手作業では、毎月のカレンダー制作で紙ちぎりや貼り絵、雑巾縫いまた季節の野菜の下処理やクッキング等を実施し、慣れた手つきで熱心に参加されていた。
- ・リハビリに力を入れ、個別訓練加算対象者は、3月現在12名、運動機能向上加算（介護予防）は6名、であった。自宅を訪問してアセスメントを行い、実生活に結び付いた訓練を行った。家族から、「リハビリを受け、自宅でも少しずつ台所に立つようになり家事を手伝ってくれるようになった。」「床からの立ち上がりがスムーズになった。」「あまり歩けなかったが、歩行距離が伸びてきた。」などの声が聞かれた。本人から「家族が温泉に連れて行ってくれるようになった」などのうれしい話も聞かれた。

## **2. 利用状況、利用傾向**

- ・今年度大きく変わったところとしては、年明けから新型コロナウイルスの蔓延予防のために、デイの利用を控えて頂いたり、ご自分から休まれる方が出始めたことである。
- ・年間を通しての一日の利用人数の平均は、13名の定員に対して12.68人であった。月々の利用者数を見ると、8月が319人、2月が315人、3月は320人で気温が高い時期や寒い時期は体調を崩される方が多く実績が少し減少している。
- ・男女比では前年同様、圧倒的に女性が多く女性39人に対して男性は3人であった。
- ・登録者全体42名の内、要支援が11名で、3分の1は軽度の方だった。支援ではあるが入浴を希望される方が多かった。また、週1～2回や月に数回のご利用者も多く、登録者数が多くなっている。
- ・今年度は10年以上、あるいは10年近く利用して下さっていた方が次々に亡くなられたり、入所されたりした年でもあった。入れ替わりが多く、新規利用者の受け入れが多い年でもあった。契約、担当者会議と、受け入れ準備にも追われた。金太郎の家の集いの場を利用して下さっていた方が、デイサービスに移られるケースも何人かあり、連携をとりながら対応させて頂いた。

## **3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果**

- ・曜日にもよるが、杖歩行やスキーウォーカーを使用される方が多く、状態が悪化すると車椅子移動となることが多くあった。室外、室内共に移動時は出来るだけ見守りや付添を行った。遠足や周辺の散歩時も車椅子を使う方が多かった。遠足の際には安全に配慮し、ほぼ全員が車椅子での移動となった。
- ・独居で要介護4だが在宅生活を強く希望されておられる利用者の方に対して、デイサービス、移送サービス、ヘルパーの昼、夜の訪問を入れて対応した。デイ利用日の送迎も2人で対応し、朝食も夕食も配

食サービスを利用され介助も行った。

- ・時間延長等保険外のサービスでは、同居されている息子さんの仕事の都合で18:00送りを希望され時間に合わせて個別対応させて頂いた。また、家族の急な用事で遅くまでお預かりしたり、一番に迎えに来てほしいという希望にも対応した。日曜日の有償デイを希望された際も希望時間に合わせ柔軟に対応をさせて頂いた。

- ・活動では、毎月壁面を飾るカレンダー制作で紙ちぎりや貼り絵、塗り絵、脳トレを希望される方には、クロスワードや間違い探し、計算ドリルの活動を実施し達成感を感じられていた。

- ・野菜の下処理や、お茶の原料となるどくだみの下処理、煮しめクッキングの手作業も皆さん生き生きと取り組まれた。

- ・理学療法士による個別訓練加算対象者は3月現在12名、運動機能向上加算（介護予防）の対象者は6名で個別リハビリに取り組まれた。またPTの指示にてホットパックを実施しているが、希望者が多い。PTによるマンツーマンのマッサージや対話は特に喜ばれ、体調についての相談もできる事から感謝の言葉も聞かれた。

#### 4. 反省点 課題

- ・今年度は保育園への訪問が出来なかったため次年度は是非行いたいと思う。
- ・前年度同様、限られたスペースであるが、ベッドで午睡を希望される方が多く、ベッドの準備や片付けにスタッフの負担が大きい。（事務所からの応援もあり、助かった。）簡易ベッドでもあり、また、毎日ベッドを動かすので故障をし易いので気を付けて行く必要がある。

#### 5. その他

- ・新型コロナウイルスの蔓延を危惧し、デイサービス利用を控える方が何人かおられた。集団だからこそ出来る事業である為、ウイルスを持ち込まない対処や消毒の徹底を実施し、利用者スタッフの健康管理を習慣化していかなければならない。一人ひとりが除菌の意識をしっかり持った行動をとる事が重要である。（担当：竹内一子）

○利用件数（定員13人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	334 (63)	347 (64)	322 (59)	349 (55)	319 (40)	323 (47)	344 (51)	336 (52)	321 (54)	300 (38)	327 (58)	320 (45)	3942 (626)
平均	12.8	12.8	12.8	12.9	11.8	12.9	12.7	12.9	12.8	12.5	13.0	12.3	12.68

○延長サービス、宿泊サービス、有償デイサービス 延べ利用件数（さざんか、やまぶき）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延長サービス	30件	45件	37件	35件	22件	17件	28件	18件	14件	14件	12件	1件
宿泊サービス	0件	2件	0件	0件	2件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
有償デイ	1件	1件	0件	1件	0件	0件	4件	3件	1件	0件	2件	2件

### (3) 老人居宅介護支援事業

## 1. 活動内容

- ・月1回以上自宅を訪問し、ご利用者の生活状況の把握やご本人やご家族の思いを聞き、相談に応じた。
- ・新規、更新時、プラン変更の必要性が生じた時、ケアプランを作成し、サービス担当者会議を開催。
- ・毎月モニタリングを実施。
- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。
- ・市役所から委託を受けた方の認定調査の実施。
- ・入退院時の医療機関との連携、退院時の支援。
- ・介護保険請求業務。
- ・施設紹介および見学や面談の同行。
- ・計画に基づいた研修参加。
- ・定期的な会議におけるケース検討。研修報告。
- ・24時間体制での緊急時対応。

## 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・月134名から150名の利用者数で推移する。昨年よりもケース数が588件増加した。月平均は141件。4月から常勤のケアマネジャーが1名入り、6人体制となった。前事業所で担当していたケースを当事業所に移行したことで、4月よりケース数が増えた。常勤2名と主任ケアマネが在籍する体制等が整い、特定事業所加算Ⅲの申請を行い、6月より算定した。それにより事業所収入も増加した。
- ・男女比は1対3位。要介護1と要介護2の方が8割程度を占めている。
- ・特定事業所加算を算定するようになった為か、医療依存度の高いケースや精神障害を持った方のケース、独居世帯など、困難ケースの依頼が以前よりも多くなっている。新規の依頼に対し、ほとんど受けている。それぞれのケアマネの担当ケース数や状況を見ながら、担当するケアマネを選定している。
- ・新規の依頼は市役所の調査員やあんしん支援センターからの依頼だけでなく、病院や老健の相談員から直接依頼がある場合や、障害サービスからの移行ケースにおいては相談事業所から2件の依頼があった。利用者から直接相談があり、担当を受ける形もあった。
- ・独居や老々介護の世帯なども増えており、家族と同居しているケースよりも頻繁に訪問が必要な状況や急な対応が必要となることも多々あった。
- ・在宅生活が困難となり、有料老人ホームに入所された方に対して、引き続き担当しているケースが3月末で6名となっている。施設職員や事業所、ご家族と連絡を取りながら、状態把握に努めている。
- ・入院期間が短くなっていることなどにより、退院時に自宅にすぐに帰ることが難しい状況から、施設入所を希望されるケースが多くあり、施設探しに追われることや、施設にすぐに入所が難しい場合にはロングショートの利用をすることも多くなっている。施設や病院からもロングショートの利用を勧められることが増えているが、ロングショートができる施設を探すのが困難な状況があった

## 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・特定事業所加算の算定に伴い、週1回分科会を行うことになり、なるべく人数が揃う日に設定して実施した。分科会では新規利用者や変化があった利用者の情報共有、困難ケースの検討をし、ケアマネ同士で共通の認識が持てるように努めた。困ったことなど、スピーディーにケアマネ内で相談することで、

悩みを抱え込まずに支援ができるように心掛けている。

- ・事業所内では解決が難しい困難なケースに対しては、あんしん支援センターの主任ケアマネに相談しながら対応した。
- ・前年度より引き続き、初回訪問時には2名で訪問するようにし、状況把握やケースの相談などをしながら支援ができるようにした。担当ケアマネがいない時にも一緒に訪問したケアマネが対応するなど、利用者や家族の方も安心できる体制を取った。
- ・実績の入力において、今までは2度の確認のうち、1回目、2回目とも1人ずつ行っていたが、利用者数が多くなった為、1回目、2回目とも2人で入力し、負担を軽減するとともに、多数の目でチェックを入れ、間違いがないように努めた。
- ・それぞれが年度初めに研修目標を決め、目標に合わせたテーマや関心のあるテーマの研修会に参加し、自己研鑽に努めた。分科会において研修報告を行い、研修で学んだことの共有を図った。
- ・あんしん支援センターや斐川町内の居宅介護支援事業所が開催した事例検討会に積極的に参加した。
- ・市が実施している地域ケア会議において、1月に事例発表を行った。専門職の方から色々とアドバイスをもらうことができ、大変参考になった。
- ・24時間対応の緊急時対応を4名のケアマネで交代して行い、緊急の相談に応じた。

#### 4. 反省点 課題

- ・目の前の問題や書類作成に対応している間に書類が滞ることもあった。業務の効率が図れるような工夫や書式の検討が必要と思われる。
- ・勤務日数の少ないケアマネが担当しているケースにおいて、不在時に即対応することが必要な場面も多い為、別のケアマネでもスムーズに対応ができるような体制を作る必要がある。困難ケースについては副担当という形で設定し、普段から状況を把握し、対応できるようにした。
- ・ご本人の意思が確認しにくい場合など、ご家族の希望に偏ったケアプランになってしまう傾向があるため、ご本人との会話の中で望む生活についてアセスメントし、ご本人の思いに沿ったケアプランが作成できるよう一人一人がしっかりと意識を持てるようにしていきたい。ご本人が望む生活を実現するために、ご本人の持っている力を引き出すことができる、自立を目指したプランを作成できるような意識を持つことを研修等で学んでいく必要がある。
- ・障害からの移行ケースにおいて、今まで障害で利用していたサービスとの違いや相談支援員からの移行など、慎重かつ丁寧に移行を進めていく必要がある為、移行前から相談事業所との連携を密に取ることや、障害サービスについての理解を深めていく。
- ・困難ケースの相談において、ただ取り留めなく話し合うという形が多い為、事例検討会で学んだ板書を利用した方法等を用いて、明確な支援方針や課題が出せるような機会を作っていきたい。

(担当：田中美穂)

#### ○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
149	150	147	137	134	139	138	144	140	134	140	140	1692

#### (4) 自主デイサービス (集いの場等)

##### 1. 集いの場の活動

地域の高齢者、障がい者を対象に「集いの場」の活動を行った。「金太郎倶楽部」「金太郎大学」「歌う青空の会」「なごみ川柳会」「木曜会」の5グループに分かれ、第3活動棟を使って活動した。毎週火曜日金曜日と隔週の木曜日に開催、年間の延べ開催回数は120回、利用者数は1,520人であった。収入は3,038千円であり昨年より341千円の増であった。

3月10日から2週間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集いの場の活動は休止した。

各グループの活動状況は、下記の通り。

	H31年度集いの場 利用状況											
	歌う青空		木曜会		金太郎大学		川柳		金太郎倶楽部		合計	
	回数	延人数	回数	延人数	回数	延人数	回数	参加者+投句	回数	延人数	延回数	延人数
4月	1	14	2	26	1	13	1	7+2	6	62	11	122
5月	1	16	2	29	1	10	1	5+3	5	65	10	125
6月	1	17	2	33	2	11	1	6+3	5	65	11	132
7月	1	15	2	32	1	13	1	8+3	6	75	11	143
8月	1	17	2	34	1	16	1	6+4	4	49	9	122
9月	1	16	2	32	1	15	1	6+4	5	62	10	147
10月	1	15	2	36	1	16	1	6+4	6	78	11	151
11月	1	16	2	26	1	12	1	7+3	6	72	11	133
12月	1	14	2	29	1	18	1	5+4	5	63	10	129
1月	1	11	2	24	1	15	1	6+5	5	63	10	119
2月	1	15	2	23	1	12	1	7+1	5	66	10	123
3月	0	0	1	13	1	11	0	0	4	50	6	74
合計	11	166	23	337	13	156	11	69(36)	12	162	120	1520

#### ア. 金太郎倶楽部

##### 1. 活動内容

- ・お茶会に始まり、体操・脳トレ・歌に加え、利用者の方から新聞の切り抜きや話題提供があり、賑やかに過ごしている。
- ・クッキング (笹巻き・白菜のお好み焼き・芋づる煮・クリスマスケーキ) や四季折々のドライブ・外出も楽しみにしておられる。
- ・7/30には、夏休み子ども交流会で、清掃活動後の子供たちとの交流会を行った。

##### 2. 利用状況・利用傾向

- ・毎第1、4火曜日、第1、2、3金曜日。毎回10~15名のご利用があり、皆さん出欠カレンダーを利用しながら出席される日を決められている。皆さん自分達の倶楽部として楽しんで参加して下さい、新しい参加者にも進んで声掛けをして下さる。年々高齢化が進み、介助が必要な方も多くなっている。



### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・個々の体調に留意しながら無理なく活動を進めていった。気持ち、体調面が優れない方は外出されず、部屋でお話しをしたり、休んで頂いたりした。
- ・自由に話しやすい雰囲気作りに努めた。賑やかにしておられても、いざ一人にマイクを向けると困ってしまう場面もあり、自然に話をしていただける機会多く作るようにした。

### 4. 反省点 課題

- ・職員間でなかなか話し合う機会が持てず反省している。
- ・体調を崩された時に、落ち着いて休んで頂ける場所がなく困っている。

(担当：嘉藤 敬)

## イ. 金太郎大学

### 1. 活動内容

- ・川上先生による出雲風土記を基に郷土の歴史の講義
- ・宍道様による地元の歴史、特に荒神谷について講義

### 2. 利用状況・利用傾向・活動の様子

- ・毎月第4金曜日。10～18名のご利用があった。
- ・川上先生にお願いしているが、年に一回他講師も迎えることとした。8月23日に今年も宍道年弘様(考古学)においでいただき、「荒神谷遺跡～青銅器発見35周年」と題し、お話しをして頂いた。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・日本文化の『稲作以前の日本』『拝む事の意味』『令和について』『簸・斐に関連して』『大国主の国造り』『天皇』『万九千神社、神有月・神無月』『おせち料理』『干す分化』『混ぜる文化』『古代人の食べ物』と言う内容で講義して頂き、そこから話題が広がって皆さんからは水害等の昔話を伺った。
- ・8月に、宍道様より『荒神谷の謎』という内容で講義して頂いた。

### 4. 反省点・課題

- ・参加者の方々の高齢化に伴って、体調不良や転倒のリスクや対応法を共有していかなければならない。
- ・毎年行う遠足が計画出来なかった。

(担当：西 博美)

## ウ. 歌う青空の会

### 1. 活動内容

- ・童謡、唱歌については引き続き季節感を取り入れた選曲を心掛けた。利用者の皆さんにその月をイメージして頂きながら歌を唄って頂けるように、会の始めに自分で撮影した写真などを映像で披露する事も取り入れた。
- ・歌う曲に興味を持っていただけるように曲の背景やエピソードなども紹介するようにしている。懐メロについては主として昭和の曲を中心に時代を追いながら選曲している。
- ・「私の好きな曲」コーナーは昨年度に引き続き実施した。
- ・懐メロコーナーでのプロジェクターを用いて歌手の映像を視覚的にも楽しんでいただく試みは好評であり今後も継続していきたい。

## 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・昨年度は徐々にメンバーが増加し登録メンバーは20名を超えるまでになった。
- ・今年度はメンバーの高齢化に伴い体調を崩されて休会・退会される方が出て来たため、多い時で18名概ね13～15名の参加で推移した。今後はあと2～3名新規利用者さんの勧誘も視野にいれたい。
- ・参加された皆さんには「歌の会を楽しみにしている」と言っているようで、積極的に参加され歌を楽しんでいただけているように感じている。

## 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・「楽しく歌う」が基本であるが曲想を少しずつ意識して歌えるように「ここは元気に強く」や「ここは優しい感じで」等の指示も取り入れるようにした。輪唱などにも引き続きチャレンジしている。
- ・曲の背景やエピソード、懐メロについては歌っている歌手のエピソードなどを事前に調べて披露する事は評判も良いようなので今後も継続していきたい。

## 4. 反省点 課題

- ・利用状況の項にも記したが、メンバーも年齢を重ねられ当初よりADLの低下がみられる方も増えてきている。会の最中はもちろんであるが、送迎時やお茶・食事の時間も含め参加者の体調等にも引き続き注意を払っていきたい。

## 5. その他

- ・引き続き利用者の皆様に楽しんでいただけるよう頑張りたい。

（ 担当：足立憲昭 ）

## エ. なごみ川柳会

### 1. 活動内容

- ・今年も、「むずかしわ～」と言いながら、頭を捻って川柳作りを楽しまれた。
- ・できた作品を作品集、金太郎便り、山陰中央新報（私の作品コーナー）、出雲川柳会、荘原コミセン文化祭に出品した。読まれた方々より、「良かったわ～」「金太郎が出て、自慢だよ」等々励ましの言葉を頂き、皆さんの意欲が高まった。特に、今年、金太郎の家創立20周年にあたり、記念誌へも川柳会の軌跡や作品を掲載し、一般の方々にも発信した。
- ・川柳以外に皆さんが興味を持っておられる健康作りや社会時事、人生論について考える機会を持った。

### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・毎月第三火曜。出席会員5～8名、投句会員は1名～5名。（コロナウイルス対策の為、休会もあり）
- ・楽しみながら作句し、批評し合ったり、意見交換したりと、切磋琢磨される場面がみられた。
- ・川柳会が終わると、意欲的に次の作品作りに向かわれた。又、投句会員の方は、作品への講師の方の講評や出来栄を担当スタッフから聞こうと待ち構えておられ、熱心さを感じた。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・皆さんに呼び掛けて、文化祭や大会への作品を出品していく事を励みにしてきた。
- ・出雲川柳会では、当川柳会から2名の受賞があった。
- ・年一回の地域への外出は、原鹿勝部未来様宅へ。柿やブルーベリーの木を見たり、頂いたりし、中々できない体験や交流をされ、皆さん楽しまれた。（普段外出されない方も、外出された。）

- ・お茶を飲みながら、川柳に加え、健康作りや社会時事、子・孫育、人生論等、様々に話題が広がった。

#### 4. 反省点 課題

- ・これからも、川柳の楽しみを広げるように発信していきたいと思う。
- ・20周年を迎え、会員の方々は、年々高齢化の為、ADLの低下もみられる。投句されていた方の中には、亡くなられた方もあったが、ぎりぎりまで川柳を作ろうとしておられたそうで、改めて川柳が皆さんの人生を支えている事、真摯に向き合わねばと思わずにいけない。
- ・川柳会中や送迎時も含め参加者の体調、転倒等にもより注意を払っていきたいと思う。

(担当：西 博美)

### オ. 木曜会（相撲甚句の会）

#### 1. 活動内容

- ・「大笑い」「気合いだ」で開会。全員で「アーアー」発声。「前唄」「後歌」「はやし」を合唱。男性を中心に得意の「本唄」披露。全員で「木曜会練成歌」を大合唱。
- ・体操、瀬崎さんの健康教室。各種クイズ、大相撲あれこれ。
- ・午後は、ハーモニカによる懐メロを中心にイントロクイズ、合唱。「題名はわからないけどロズさむ」

#### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・毎月第1、3木曜日。14～18名のご利用があった。
- ・施設へ入所された方等おられ、一時より若干人数減少。
- ・「薫風の家」「みずほの家」への慰問。20周年感謝祭への出演。カラオケ大会も開催。
- ・女性もソロで歌われる方が出始めた。
- ・令和2年3月12日は、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

#### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・女性にも「本唄」を歌って頂くよう始めて、結果が現れた。
- ・カラオケ大会を初めて開催。大変喜ばれ盛り上がり、是非続けて欲しいとの事。

#### 4. 反省点 課題

- ・機能の低下されている利用者がふえており、受け入れの職員体制を考えていく必要がある。
- ・ほとんどの方が背の高い椅子を希望されるので、椅子についても検討していかなければならない。
- ・座る席についての希望が多くなっている。
- ・外部での発表の場を、もっと確保していきたい。

(担当：坂本道夫)

### 3. 訪問介護事業の経営

#### (1) 介護保険 訪問介護事業

#### 1. 活動内容

- ・身体介護～ 体調確認、水分補給、食事、服薬、排泄、ポータブルトイレの更新、衣類の着脱、入浴、足浴、手浴、清拭、移動介助、通院介助
- ・生活援助～ 体調確認、調理、買い物、食材等の保存確認、薬取り代行、住居内の掃除・整理整頓、洗

濯、シーツ交換、ベッドメイキング、室内換気、室温調整、ごみ出し

- ・通院等乗降介助～ 移動の介助又は見守り、車椅子移乗、乗車・降車の介助又は見守り

## 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・高齢化、認知症の進行、病気の悪化等で自力での生活が難しくなった方があり、新規利用者、サービスの追加があった。
- ・入院等で利用中断の方が数名あり、訪問件数減少の時期があったが、新規利用が増加した。
- ・要支援者の利用増加。

## 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・分科会、連絡ノート、グループライン活用での情報共有。日々の訪問での気付きを職員同士、管理者、サービス管理責任者と話し合い、支援のやり方を検討した。日々状態が違い、介助が増えた利用者について、連携を取り合って支援を行った。
- ・気付きをケアマネに報告し、支援内容の変更、改善に繋げる事が出来た。

## 4. 反省点 課題

- ・年末から事業所内でインフルエンザが流行し、12/29 からヘルパーの半数が罹患した。年末年始に出勤予定だったヘルパーに出られない人があり勤務変更し、少ない人数で対応した。
- ・2月から全国的に新型コロナウイルスの流行があり、マスク着用と手洗い、うがい、手指消毒の徹底を心掛けた。家事支援の利用者にも検温を行った。今後も継続して感染予防を行う。
- ・訪問忘れについて、3月3日第3者委員会で報告、アドバイスを頂き事業所内で協議。ヘルパー個人が当日の訪問先を一件目の訪問前と最後の訪問後に本部事務所に連絡し、訪問先チェックをする事にした。訪問先や時間の変更がある時は、漏れが無いよう確認してヘルパーに連絡した。事務所内での確認を徹底する。
- ・日々、報告、連絡、相談を行い、利用者の状態悪化防止、改善に繋げる。

## 5. その他

- ・当日キャンセルされる方や訪問してからキャンセルされる方もおられ、キャンセル料を設定することで少しでも当日キャンセルを減らすため、8月1日から当日キャンセルされた場合は300円のキャンセル料を頂く事にした。

(担当：須谷敦子)

### **(2) 有償ヘルパー事業**

公的サービスで対応できない家事援助や施設に入所されている方の外出、帰省や県外へ旅行の同行、余暇活動等、ご利用者の希望に合わせ幅広い支援を行った。通院時の院内付き添い等、介護保険サービスと組み合わせて行うケースもあった。利用件数は、年間 1,002件であった。収入は1,870千円で昨年より228千円の増であった。

デイ等の職員の協力も得て独居高齢者宅へ夜間や日曜日の日中に訪問し、安否確認、就寝介助等行った。在宅生活を継続していく上で、無くてはならないサービスであると考えている。

8月より料金値上げし、30分 600円を800円に、1時間 1,000円を1,400円に変更した。

(担当：須谷敦子)

○訪問介護・有償ヘルパー利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護	361	326	311	339	265	300	324	328	304	270	278	262	3,668
総合	47	71	43	53	52	45	52	47	52	96	66	77	701
有償	101	79	81	108	99	83	80	77	70	75	68	81	1,002

#### 4. 障がい福祉サービス事業

##### (1) 居宅介護 (障がいヘルパー)

###### 1. 活動内容

- ・自宅へ訪問し、家事援助（調理、掃除、買い物、育児支援等）や身体介護（入浴、共にする家事等）を行ったり、病院の通院のための車への乗降の介助を行った。
- ・家事援助は、支援時間 30 分から 2 時間半、身体介護は 30 分から 2 時間のそれぞれニーズに合わせて提供した。通院等介助は、病院の中での介助が必要な方については付き添いもした。

###### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・相談支援専門員の計画書に基づき、個別支援計画を作成し、決められた時間、必要な内容を提供した。決められた時間外の希望がある時では、計画書の変更、内容を明確にした。
- ・家事援助は、希望としては掃除が多くあり、身体も共にする掃除が多くあった。

###### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・ご本人様、ご家族にご希望を聞き、必要なサービスの検討をして、最適な内容の支援を実施した。ご家族、相談員への報告を定期的に行い、ご本人様への支援の内容の見直しを行った。

###### 4. 反省点 課題

- ・訪問予定時刻に訪問出来ず、訪問時間の変更をお願いすることもあった。
- ・職員間の統一したサービスの伝達を瞬時に行うことの必要性を感じた。

###### 5. その他

- ・8月1日よりキャンセル料徴収することになった。

##### (2) 移動支援

###### 1. 活動内容

- ・通学移動支援  
有償運送車両を使用し出雲養護学校に通学の付添い個別支援（ヘルパー1名に対し利用者1名）とグループ支援（ヘルパー1名に対し利用者2～3名）と徒歩にて学校に登校付き添いを行った。
- ・自宅から福祉施設への送迎など通院以外の目的で安全確認移動を行った。
- ・休日の余暇活動、買い物、スポーツなど外出の付添いを行った。
- ・支援時間は30分の買い物から食事・外出付き添いの長時間まで様々なニーズがあった。

###### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・8歳から70歳代、毎日から数か月に1回利用と幅広い利用の方がおられ、上記の希望の内容も

様々で利用者のニーズに合わせての支援を行った。

- ・遠い所では、お墓参りで益田市への移送、付添いを行った。
- ・買い物や、外出外食の希望が多くあった。利用者、家族の方からは大変喜ばれ外出楽しみにされていた。
- ・新型コロナウイルスの感染防止の為、2月より利用が減り、長時間の外出のキャンセルがあった。

### **3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果**

- ・記録にご本人の様子を細かく書くこと、記載不十分な所は付け足しを行った。手順の統一をした。

### **4. 反省点 課題**

- ・職員間の連絡が不十分なところがあった。利用者の人数が増えたので、情報の共有をもっと徹底しより良いサービスの提供に努めていく必要がある。
- ・感染症対策、インフルエンザ、新型コロナウイルスなどについても情報を職員間でもっと共有していかなければならない。

### **5. その他**

- ・8月1日より、当日のキャンセルに対しては、キャンセル料を頂く事にした。

## **(3) 同行援護**

### **1. 活動内容**

- ・希望時に、利用者の方の要望に合わせて外出の支援を行った。
- ・買い物、ジムトレーニング、カラオケ、墓参り、温泉、クラブ参加など付添いを行い、視覚情報の伝達、安全面に配慮して行った。
- ・JRやバス、自家用自動車有償運送の車両での外出もあった。
- ・通院の検査、診察など付添いを行った。

### **2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）**

- ・定期利用9名利用された。（新規1名）
- ・時間は、10時から17時まで支援時間1時間から6時間と希望に合わせた内容を実施した。
- ・こまめに視覚情報の声掛けを行い、本人が状況を理解できるように、また安全に外出が出来る様に配慮した。トイレや食事の介助はご本人の希望に沿った支援を心掛けた。
- ・新型コロナウイルス感染防止の為、2月より利用が減少している。

### **3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果**

- ・利用者の安全を考え、的確に視覚情報を伝えご希望に添える様に支援した。
- ・余暇活動だけでなく生活の必要不可欠な通院の付き添い等も依頼があった。

### **4. 反省点 課題**

- ・日程の調整など、連絡が直前になることもあった。前もっての計画を心掛けたいと思った。

### **5. その他**

- ・8月1日よりキャンセル料徴収することになった。

(担当：竹内淳子)

○障がい福祉サービス利用延人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護	96	63	71	85	117	111	138	149	135	122	92	142	1,321
同行援護	8	10	8	8	8	7	13	7	8	9	7	1	94
移動支援	117	134	139	119	49	140	154	153	139	126	134	116	1,520

## 5. 麦の家 障がいデイサービス事業

### (1) 就労継続支援B型

#### 1. 活動内容

- ・地域で生活されている障がいのある方に社会的自立を目的として、作業活動や生活支援の提供を行う。

#### 【作業内容】

- ・施設外就労…出雲空港公園トイレ清掃、直江駅トイレ清掃、いりすの丘工房・トイレ清掃、今岡ファーム（ネギ抜き・ネギ箱折り）、民家の草取り、豆栽培、畑野菜栽培、お茶原材料の収穫
- ・内職…自動車部品組み立て（山光）、袋詰め・シール貼り（ソノ）、ECI
- ・オリジナル商品製造・販売…姫茶、命茶、恋茶、クロモジの湯（入浴剤）、手作りこんにやく、極小黒豆の選別・袋詰め

#### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・今年度の新規利用者6名。そのうち新卒者2名、退所者1名（施設入所）、年度末の在籍者数は26名。
- ・1日の平均利用者数は、10.78人である。利用予定であっても、当日欠席される方もあった。
- ・利用希望はあるが、今は、受け入れが難しい状況にある。

#### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・前年度から請け負っている自動車部品の数量が格段に増え、利用者の方の作業ペースも上がり、安定した収入が得られるようになってきた。
- ・姫茶、命茶の売上げが順調に伸び、リピーターの方々の反応の手応えが感じられるようになってきた。また今年度は積極的に試飲販売等を行いPRにつとめた。
- ・極小黒豆の生産に力を入れ収穫量を増やし、道の駅での販売もスタートさせ、順調な売れ行きだった。
- ・これらの取り組みの結果として、今年度の平均工賃が6,248円と前年度に比べて1,000円のアップとなり時給も目標額を超えて133円となった。まだ他事業所に比べれば低額だが、それでも一步一步確実に伸びてきている。利用者一人ひとりの適性を見極めながら適材適所の作業分担をするなど、各々がそれぞれにマッチングし、就労意欲をより高めてスキルアップ、次の目標をめざして頂けたらと思う。

#### 4. 反省点 課題

- ・クロモジの枝の商品化が今年度は実現できなかった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大による影響が自動車業界において出てきているので、いずれは内職にも影響が出てくることは避けられない中で、収入においても割合が大きいだけに、今後、収入源の多様化が求められる。一層新しい商品開発、取り組みが性急な課題となっている。

- ・畑での作業の知識が共有されておらず、担当に限られて、一部職員に負担がかかる状況があったので、今後は、みんなが学び知識を得て作業分担をしていきたい。
- ・振興センターによる専門家派遣事業サービスを積極的に活用しながら清掃のスキルアップを図ったり、農福連携による個別支援を受けて畑の管理、知識を学べるとよい。
- ・アマチャヅルが年度途中で不足してしまった。来年度は不足がないように採栽をしたい。

(担当：阿食羊志子)

○利用件数 定員 10 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	278	278	244	276	269	246	308	269	270	272	296	315	3,321
平均	10.69	10.30	9.76	10.22	9.96	9.84	11.41	10.35	10.80	11.33	11.84	12.12	10.78

## (2) 生活介護

### 1. 活動内容

- ・一人ひとりの特性に応じた今までの生活スタイルを大切にしながら、必要に応じた介助を行い、無理なく安心して過ごして頂く場を提供する。
- ・一人ひとりの持てる力、能力を生かした活動や個々の希望メニューを取り入れながら心身の活性化を図る。
- ・活動…作業、散歩、ドライブ、買い物、壁面制作、音楽鑑賞、習字、行事参加
- ・介助…食事、入浴、排泄      ・PTによるリハビリ

### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・在籍者数は今年度で 20 名となり、そのうち平日利用者 14 名、土曜祝日のみの利用者が 6 名となっている。
- ・障害区分では 5~6 の方が 7 名おられマンツーマン対応が必要であったり、難病や重い病気を抱えていておられる方などがおおく、各々適切な介助が求められている。
- ・視覚障害の方が 1 名増えて 2 名となり、安全な動線の確保が求められた。
- ・作業は出来るが、ゆったりと落ち着いた環境を求めて他事業所から移ってこられた方も 2 名おられ環境に適応され、安心して作業に向かわれている。
- ・今まで、自宅内だけで生活をされていた方が、来所し入浴サービスを利用されるようになったケースが 2 名あった。社会とのつながりを持たれるようになったことは、大きな意義があると思う。

### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・新規利用者が増え、1 日の利用者数が 8 名~10 名と定員に達することもあった。
- ・ゆったりと落ち着いた環境のよさを紹介して下さる相談員さんの中で一定の評価を頂き、大勢の中では適応が難しい方々の相談が寄せられ、その後の利用もスムーズで喜ばれている。生活介護でも作業能力に応じた工賃がきちんと支給されていることは魅力の 1 つであり、特性やこだわりを受け入れながら、持てる力を最大限に発揮できるような作業環境の工夫に力を入れた成果が出ている。
- ・常勤の看護師による適切な健康面でのアドバイスや栄養、食事指導がなされた。



#### 4. 反省点 課題

- ・利用者数が増える一方で、ゆったりと落ち着いた環境から少しずつ遠ざかり、こだわりや特性面で環境に適応しづらい利用者に対し、より細やかな配慮が必要となってきた。充分に対応が出来ず問題行動を引き起こされている面も見られる。
- ・麦の家の生活介護のアピール面がなかなか見えてこない。作業ができる生活介護の他、楽しい活動を盛り込み笑顔あふれる生活介護の場としたい。
- ・障がいの特性をしっかりと理解、共有したうえで、一人ひとりの人生の在り方にも目を向けながらQOLの向上に向けて一歩一歩積み重ねていく必要がある。

(担当：阿食羊志子)

○利用件数 定員 10 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	138	126	148	160	160	214	210	190	194	182	169	190	2,081
平均	5.31	4.67	5.92	5.93	5.93	8.56	7.78	7.31	7.76	7.58	6.76	7.31	6.76

#### 6. 福祉移送（福祉タクシー、有償運送）

##### 1. 活動内容

- ・福祉タクシー（4条）：2種免許を取得した運転士が車椅子を使用されている方や障がいのある方、内部疾患のある方の外出や通院のサポートを行った。
- ・有償運送（78条）：ヘルパー2級及び介護職員初任者研修受講修了者が、運転者講習を受講し、陸運局の許可を得て、訪問介護事業の通院等乗降介助、移動支援、居宅介護の通院乗降介助、同行援護等と組み合わせた移送を行った。定期利用の方や事前に予約を頂いて利用される方が多いが、急な依頼にもできる限り対応させて頂いた。

##### 2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・出雲市や松江市の発行するタクシーチケットにも対応し、殆どの方が予約して頂いてのご利用だが、当日の依頼にもでき得る限り対応させて頂いた。
- ・施設入所されている方の外出や通院、入退院の依頼も多くあった。
- ・要介護ではない方や訪問介護契約をされていない方の利用も多く4条タクシーをできる限りで対応させて頂いた。
- ・10/3で4条タクシーを1台廃車し、1台での対応となった。
- ・安全運転を心掛け、また人に優しい運転（横断歩道を渡ろうとされている方や雨の日の歩行者等）を継続していく。

##### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・大きな事故もなく、安全運転を常に心掛け業務に取り組んだ。
- ・新規の方等、地図やその方の身体状況などを密にし、運転士が変わったために対応が変わったりすることのないよう努めた。
- ・依頼に漏れのないような体制を心掛けた。また、予約時間に遅れることのないよう、交通事情の報告等

を共有した。前の付添が長引いたため次の移送に遅れそうな場合など早めに事務所に連絡を入れ、他の職員が代わりに向かう等できるだけ利用者の方にご迷惑をかけないよう努めた。

- ・付添の依頼も多く、ケアマネや家族と連携し、ご利用者の方の様子を書面にしてもらったものを持参して対応するようにした。
- ・車内清掃を全職員が心掛け、利用者の皆様に気持ちよく乗っていただけるよう出発前や帰所時にはマットの泥を払うようにした。
- ・迅速なタイヤ交換を行った。

#### 4. 反省点 課題

- ・安全運転に関する情報を職員会でも話しをさせて頂いたが、まだ全職員に徹底させるには繰り返し周知しなければならないと思った。
- ・毎年のことではあるが車両に傷が目立った。報告のないものもあったため、報告の徹底を全職員に再度周知していく。
- ・研修に積極的に参加し、介護技術の向上や病気や障がいに対する理解を深め、より質の高いサービスが提供できるよう努めていく。 (担当：森山幾美)

○利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4条 (福祉 タクシー)	102	94	62	94	65	67	72	66	68	77	82	76	925
78条 (有 償運送)	374	354	332	348	223	302	366	362	321	264	235	246	3,727

### 7. 障がい者相談支援事業

#### 1. 活動内容

- ・新規、更新時、プラン変更の必要性が生じた時、サービス等利用計画を作成し、支援会議を開催。
- ・モニタリングの実施。
- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。毎月のサービス調整会議の出席。
- ・市役所から委託を受けた方の認定調査の実施。
- ・請求業務

#### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・相談員 2名で 15 件担当している。
- ・障害種別：身体障害…6 名、知的障害…1 名、精神障害…8 名 ・男性 9 名、女性 6 名。
- ・金太郎の家との従来からのつながりから新規のケースを紹介して頂くことが多かった。

#### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・今年度も相談支援の研修にたくさん参加させていただいた。他の相談支援専門員とのグループワーク形式の研修が多く、一つの事例についても様々な視点から色々な意見や考えかたを共有することができ、とても勉強になった。

- ・12月から相談員が2名体制となり、個々のケースについて相談しながら進めることができた。困難ケース等については、ふあっとなど機能強化事業所に相談させていただいた。

#### 4. 反省点 課題

- ・障がい福祉の制度やサービスについて、知識が十分でないと感じるが多々あったため、研修等に参加しながら今後もっとたくさんの情報や知識を蓄えるようにしていきたい。
- ・本人の生活全体に対する希望を様々な視点からもっと深くアセスメントしながら、サービス等利用計画に反映させていきたい。
- ・福祉推進課への書類の提出が遅れてしまうことがあったため、提出日等確認しながら、期日厳守で行うようにしていく。(担当：農間玲美)

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
9	10	10	9	10	9	10	11	12	12	11	9	122

### [公益事業]

#### 1. 障がい者地域生活支援事業

##### (1) 日中一時支援事業

##### 1. 活動内容

- ・利用者家族の要望に応じた利用時間の受け入れと、安心して過ごせる場の提供を行った。

##### 2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・年間を通しての利用者(児)は10名で、途中1名はグループホームへ入所されたために利用がなくなった。毎週定期的に利用される方が5名、他の方は単発的に利用されていた。
- ・小中学校及び、出雲養護学校高等部の生徒の放課後利用や土曜日、祝日、長期休み期間中の利用があり、個々に応じた学習指導や自由遊びの見守り、外出など行った。
- ・他事業所(就労B型・生活介護)を利用された後の居場所として毎日利用されたり麦の家で就労B型、生活介護を利用されている方が、利用日数が超える場合に日中一時支援を利用して来所されていた。

##### 3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・日中一時対応専門スタッフを配置し、学校の担任との連携を図りながら、より特性を理解し、落ち着いて過ごせるように取り組むことができた。

#### 4. 反省点 課題

- ・土曜日、祝日、夏休み等の長期休みの利用日は、生活介護利用の方と一緒に過ごすことが多く、障がいの特性によっては一緒に活動が出来ず、マンツーマン対応を求められることが多々あり、職員体制に厳しいものがあった。(担当：阿食羊志子)

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
77	66	53	67	59	52	46	46	54	40	44	58	662